すてき銭湯ばなし はすぬま温泉

2014年1月1日

アイディアで銭湯を楽しく

お風呂屋さんをやっていて良いこと

いちばんの楽しみはねー、やっぱりお客さんが「いいお湯だったね」って帰って行ってくれること。

「ごちそうさま」って言って帰ってくれるの、江戸時代からあったんですよ。江戸時代のころにね、庶民ってお風呂にはいれなかったんです。井戸水でからだ拭くぐらい。で、月にいっぺんぐらい、知り合いの武家屋敷とかお寺に、お風呂をいただきに行くの。そうすると、帰りに「ごちそうさまでした」って帰るの。それは江戸の習わしのあいさつ。

うちの入口に板に「わ」って書いてあったの見ました？お風呂屋さんでしょ。板に「わ」って書いて？・・「わいた」。湯が沸いた。要するに「営業中」ね。それで営業外だと？板に「ぬ」。・・「ぬいた」。子どもたちが小学校でひらがなを習うでしょ。お父さんお母さんとそこ歩いたときに「あっ、『わ』だ！」って言うわけ。で、お父さんに「なんで『わ』なの？」って聞くけど、お父さんわかんないじゃない。そうするとうちへはいってくるのね。「すいませーん、そこに『わ』って書いてあるんですけど、どういう意味なんでしょう？」って。で、教えてあげると、お父さんもう有頂天。

で、話はもとにもどって、楽しみなのは、お風呂にはいってもらうことはもちろん、お客さん同士のコミュニケーションもひとつ。それからうちの場合は、クイズもひとつ。インターネットにうちのホームページがあるんだ。うちの洗い場の中に滝の絵があるんだけど、滝の名前当ててみて。（・・・聞き手・嶋峰は「大子（だいご）の滝」と答えてはずれてしまいました。・・・）これに当たったら、そこのアイスクリームとか飲み物をプレゼントするんだけどな。正解は「〇〇の滝。」（答えはここには書かないでおきます。）あれはわかりやすいんだけどな。

はすぬま温泉ご主人の子ども時代を披露

初代は戦前から。私の祖父・祖母。おれが小学校のころはお風呂屋さんがいっぱいあったから、ひとクラスに２人ぐらいいたもん、風呂屋の子が。学年に５、６人いたよ。毎日みんなで風呂屋へ行って、風呂で遊んで怒られてた。

桶を二つ合わしてさ、浮き袋にして、空気がもれるからタオルを巻くの。それで、空気が抜けるまでに湯舟ン中を泳いで何回回れるか。あと、深い風呂と浅い風呂の間に、下に四角い抜け穴があるじゃない。あすこをね、息を継がずに何回往復できるか。怒られた・・（笑）。

生まれたときからお風呂屋さんだから、幼稚園のときから燃料取りの手伝い。あのねー、「ミジンコ」って知ってます？微生物？違う。微生物のミジンコ燃してもお湯は沸かないから。そのころは材木屋さんがいっぱいあった時代で、材木屋さんで木を切るでしょ。そうすると粉が出るでしょ、あるいは削りカス。あれをミジンコって言うんです。それをね、パイスケっていうカゴがあって、そこへこう、スコップで入れるの。そのパイスケを担いでトラックに入れて、中身を空けて、また空（から）のパイスケを持ってってミジンコを入れて来るわけ。

次ページへつづく

３０年前と変わったこと

３０年ぐらい前と変わったこと？すっごい変わったよ。わたしが３代目で、跡を継いでから３３年。３３年前わたしがここを継いだころには、ここは番台。建物はそのときに鉄筋に直したの。それまでは木造で、うちの父とか母がやっていて。おれはそのころは２８（歳）で、風呂屋継ぐつもりはなかったし。公務員やってたんで。土木工学出身なんで都市計画。その８年後にフロントが出はじめて、さっそくフロントに直したの。昭和の最後にこのフロントに直したんだ。

この建物も自分で設計して、震度７．５でも安心できるように設計してあるの。それプラス１割増。だからこんなでっかい柱なの。（ロビーに太い柱あり）普通は３階建てにこんなでっかい柱はいらないんだけど。それで地下２７メートルの東京礫層（れきそう）の岩盤まで打ち付けてあるから。１０階建てのビルを建てるぐらい基礎が十分やってあるのね。

あと、３０年前には、東京都でお風呂のない家庭ってのが、まだ何１０パーセントかあったのね。だから、そのころは、ふつうにお風呂を開けてれば、お客さんは来てくれて、経営成り立ってたの。それが、お風呂がどんどん普及して来て、今から約２０年ぐらい前になると、９０パーセント以上の家庭にお風呂ができるようになったから。そうするとお風呂へ行く率が少なくなって。お風呂屋さんの氷河期がそのへんから始まってね。うちもその頃からだいぶお客さん少なくなり始めて。

アイディアで銭湯を楽しく

ただそのまんまやってるとお客さん少なくなっちゃうんで、じゃあ何か工夫をしなきゃいけないっていうところで、いろんな工夫をお風呂屋さんが始めるようになってきた。あるいは建物をニーズに合わせて建て替えるようになって来た。ただお風呂へはいるだけじゃなくて、いろんな要素を含める・・お客さんの目線で考えて「こういうのがあったらいいのかな」っていうものを取り込んできて今に来てるんだ。

それからこういう（ロビーのテーブルにスタンプ帳あり）スタンプラリーを始めたり、うちだったらチャリティーライブをやってみたり・・復興支援でね。もう５回やってるんですよ。３月１１日の大震災の１か月後にもう始めちゃったの。朝日新聞にも載ってますよ。集まった義援金を大田区から東松島市のほうへ寄付をしたりしました。１日で１１万円ぐらい集まったの。大田区の区長から感謝状もらったよ。ちらしはインターネットでも流しました。今、インターネット使わなかったらお客さん来ないもん。お風呂屋さんにインターネット普及させようと思って予算とったんだ。

↑東日本大震災１か月後に行ったチャリティライブのポスター

↑第二回チャリティライブのポスター

銭湯に足を向けてもらうにはどうしたらいいの？っていうところだね。このチャリティーライブでも、「ライブなら来よう」っていう人が来て、うちへ来る、それで「あ、お風呂屋さんって今こうなってるんだ」って言って今度はお風呂にはいりに来てくれる。例えば今度は映画をやる・・映画をもう２度やってるんですけど・・NPO 法人の人の映画とか、観

はすぬま温泉ご主人の子ども時代を披露

そんときに、トラックの上で、ミジンコをフワッっと置くと量が積めないじゃない。だから踏みつぶすの。それを幼稚園小学校のときやってたの。トラックの荷台で踏んづける役。ミジンコ踏んづけ役。ミジンコ踏んづけてると、汗かくじゃない。そんであれ粉だから飛ぶじゃない。だから、体のこういうとこへいっぱいくっついて、かゆいのよ。そうすると帰ってきてから風呂へザブーンっとはいって。最高のおやつがかき氷。うまいよ。

あとは、そのころはみんな薪を燃してたんだけど、薪の良さそうなやつを削って刀を作ったりして遊んでたね。ところがその木刀を作るのに、木を選ぶんで薪の上へ乗っかってると、しょっちゅう釘が生えてるわけ。だからよく釘踏んづけるわけ。それで、踏んづけたとこが化膿しちゃうから、何をするかっていうと、新聞紙に食用油をたらすの。それで火をつけると、食用油があったかくなるから、それを傷口へたらすの。そうすると化膿しなくなるの。１本２本じゃなく、しょっちゅう踏んでたよ。傷跡？もう５０年もたってるから残ってないよ。

子どものころは羽田だったから、学校から帰ってくるとハゼ釣り。海老取川と多摩川のぶつかるとこ。五十間鼻（ごじゅっけんばな）。とんがったとこにお稲荷さんがあるの。あの両サイドがいっぱい釣れたの。ハゼがバケツ一杯釣れたから。とにかくバンバンバンバン、ハゼだらけ。ハゼ釣り毎日やってたねー。それみんな佃煮にした。そのころは食うもんなかったから。ラーメン初めて食べたのは小学校１年だからね。

←ロビーには訪れた人たちからのメッセージやサインがいっぱい。

光協会の昔の８ミリ映画とか・・それをうちのお休みの日にやったのね。流し場の中に画面を作って。

お風呂屋さんっていうのは、今はお風呂へはいるだけじゃないよ、っていうかね。少しでも「お風呂屋さんて楽しいね」って思ってもらえると、みんなが足が向いてくるじゃない。ほかにもやってるところがあるよ。

ふだん会わない人同士が友達に

はだかンなると、年とか職業とかをあんまり感じなくなるよね。一例をあげると、２１、２歳の旅行会社の男の子がお風呂に来たとする。で、てんぷら屋のおじさんがお風呂屋に来た。たまたま時間が一緒で何回か会ってお友達になったと。おまえ今度どっかめし食いに連れってってやるよ、とか言って、いつの間にか若いほうがそのおじさんを「お父さん」って呼ぶようになったりとか。意外とお風呂屋さんで知り合うとお互い名前を知らなかったりするよね。「あーどーもー」とか言うんだけど名前は呼ばないもんね。

↑お客さん同士、ほどよい距離感で会話ができる居心地良いロビー

昔はお風呂屋さんで商談もできたよ。今でも、その旅行会社の男の子はうちのお客さんから旅行の話なんかもらえるみたいよ。「今度さー、あすこ行くんだけど頼むね。」「いいですよっ」って感じで。それができるのは、こういうロビーがあるからだよね。男も女もいっしょに会話できる場はロビーしかないからね。うちにはハーブティーもあるよ、無料の。２０年来やってる。ドイツのクアハウスに習って始めたの。

↑ハーブティーのサービス。ソファに座ってひと口飲むと、お風呂上がりに「ホッとひと息」。休まります。

（「外国人のための銭湯のはいり方」という動画が YOUTUBE にアップされている話になる）あれはね、観光庁が蒲田を観光の戦略起点都市として指定したんですよ。銀座、秋葉原、蒲田。観光庁が大田区へはいって来て、何を観光の目玉にしたらいいだろう、外国人に来てもらうのに目玉にするのに何がいいだろう、っていうんでね。温泉だろうってことになって。「じゃあ、世界に発信する動画を作ろうや」っていうところであれができて。銀座や秋葉原から比べたら認知度がすごい低いからね。それをどう高めるか・・とにかく動かないとね。

銭湯を減らすな

（お風呂屋さんの廃業を防ぐために）だれかに貸してやってもらうこと？それはできるだろうね。ただ、「だれかやって」って言ったときに手が上がるかどうかだよねー。やる気のある人がいればいいけど、問題は資金がかかるよね。お風呂屋さんって大きいし、何かやるっていうとすぐ一千万とか、かかっちゃう。補助が３分の２出たり半分出たりするけどね。（お風呂屋さんが廃業しちゃうのは）地域のためにならないんだけどね。

うーんとね、第二京浜浴場さんてわかる？大森にあったんですよ。あすこが一例なんですけど、（２０１１年）３月１１日に煙突が倒れたんですよ。で、３日後には廃業ンなっちゃったの。そんときにおれが現場へ行ったんですよ。入口のところでじっと立ってたの。そしたら、おばあちゃんが一人歩いて来たの。桶を持って。たぶん８０過ぎのおばあちゃんだよ、品のいいおばあちゃんで。「あら、お休みかしら。」って言うの。だからおれ「いや、おばあちゃんね、この貼り紙ね、『廃業』って書いてあるんですよ。なぜかっていうと地震で煙突が折れちゃって。」って言ったの。母屋の上へ煙突が乗っかっちゃったんです。そしたら、そのおばあちゃんが「やー、それは困りましたねー。あと近くのお風呂屋さんどこですかねー」って。

あの辺はけっこう（お風呂屋さんの）過疎ンなっちゃって。「大森のダイシンのちょっとこっちの美奈見の湯っていうところですよ。」って言ったら、「あすこまでは歩いてはとても行かれないわねー」バスで行くとなると山王から大森の駅をまわって行かないとならないのね。そのおばあちゃんはほんとにさみしそうに家へ帰って行ったの。

そういうことが起こりうるんですよ、これから。あのおばあちゃんあれからどうしたかね。そういう例がどんどん増えてきちゃうってことですよ。だから、がんばってやっていかないと困るよね。大田区にもおれが言うのは「いま５０軒あるからって安心してるな。これが１０軒になったらどうすんだと。そういうおばあちゃんみたいな人ばっかりになっちゃうぞって。区で公共の風呂屋作ったら何億かかるかわかってるか、って。土地買って建物建てて職員雇って給料払って。だったら風呂屋を存続させるように努力しなきゃいけないんじゃないの」って。

はすぬま温泉ご主人の子ども時代を披露

おれが幼稚園のころは、今の羽田飛行場が米軍の基地だった。おれが生まれたのは戦後だけどまだアメリカ軍がいて、うちのお風呂屋さんの近くに「パンパン」がいっぱいいたよ。おれは敗戦国のガキで、こんな破けた服着てるわけ。で、そういうおねえちゃんのとこ行くと、兵隊が「いい子だねえ」なんて言って・・英語で言ってたのかなあ、チョコレート出してくれて、これがウマイ。チョコレートがね、ナッツがはいってんのとはいってないのとあってね。食べたことないしウマイじゃない。何曜日におねえちゃんとこへ（米兵が）来るな、ってのがだんだんわかるじゃない。だからそのころになると行くの。そうすっとチョコレートもらえるの。

（そばで無料サービスのハーブティーを飲んでいた年配のお客さん、「いい子だねえなんて言わないよ。このガキあっち行け、って言ってたんだよ」とのご意見。）

銭湯からいろいろ発信中

（ある男性のお客さん、ロビーで売っている絵葉書帳を見てご主人に「これはもうなくなっちゃったの？」と尋ねる。趣味で写真を撮っているお客さんが作ったオリジナル絵葉書を安価で販売しています。「この前たくさん買ってったけど良かったからきょうまた買おうかと思って」）

みんなけっこう年賀状に使うとかで買ってっちゃったよ。

（「じゃあこっちのこれ。」「次いつ来る？」「３枚でいくら？」「２、３日したら来ますから」など、ご主人と小商談中）

↑お客さんが趣味で作っている絵葉書。

これは売り上げを義援金にしてるの。

（別のお客さん「街で売ってる絵葉書よりこっちのほうがいいよ！」・・など、このあたり録音テープにロビー内あちこちで話に花を咲かせるお客さんの声が入り乱れている！）

この絵葉書作ってる人はね、さっき言ったチャリティーライブに来てくれて、趣味をお金に代えて寄付できるならって言ってここに置くことになったの。何かやれば輪が広がっていくよね。

あとはチャリティーライブに来てくれた人が駅長さんだったのね、東急線の。で仲良くなって、こういう（チャリティーライブの）ポスターを各駅に貼らせてもらったの。銭湯スタンプラリーのポスターとかも。地域のイベントがはやれば電車に乗る人も増えるから。地域が元気になれば人も集まるもんね。

↑ロビーのテーブルにはこれまでのやこれからの話題が満載。

ロビーを禁煙にしたり、外に置く灰皿を、東京の１０００軒のお風呂屋さんに配ったりしました。「お風呂屋さんの入口に置いといたら街がきれいになるでしょ。」って JT さんに交渉して。１０００個の在庫はないからちょっと待ってくださいって言われたけど、いいですよ、待ちますって言って。

（はすぬま温泉さんの看板の字体がいい感じですが？）あの字体はね、アイヌ文字。それを引用さしてもらって。なぜひらがなにしたかっていうと、やさしいイメージにしたいから。漢字で「蓮沼」じゃなくって。子どもたちや若い女性がたくさん来てくれるお風呂屋さんにしたいのね。企業でもデパートでも女性が来てくれないと、はやらないんですよね。そういう意味合いで、ああいうやわらかい字にしたの。

２代目ンときはね、「正和（しょうわ）浴場」っていう名前。おれの代になってから、「そういう硬いのではだめよ、やっぱりみんなが読めるひらがなで。」っていうんで「はすぬま温泉」にしました。

名前を変えちゃうこと？変えちゃいますよ、もう何でも変えちゃいますよ（笑）。

もう時間？まだ半分も話してないけど。

↑↓ご主人近藤さんは、大田区の友好都市、秋田県美郷町のふるさと大使に任命されていて、東京ではここでしか買えない特産品がいろいろ売ってます。